



## 1 あいさつ

## 2 議題

（1）第3期岩倉市地域福祉計画のパブリックコメント結果について  
事務局から説明。

**委員長**：パブリックコメントの意見の提出は特になかったとのことであった。次の（2）に入る。

（2）第3期岩倉市地域福祉計画の承認について  
資料2を用いて事務局から説明。

**委員**：第3期計画の14ページ「町別の高齢化率」を見ると、南新町は高齢化が進んでいるが、北島町も高い。現在は住宅が増えているのでこれで良いのか疑問である。

**事務局**：国勢調査は5年に一回であるため、これが現状を示せる最新版の数値である。また、特別養護老人ホームの方々の住所地を北島町に移していることも影響していると考えられる。現状では、確かに新しく家ができていたりしている。

**委員**：若い人が増え、子どもが増えていると言われている地域だと思う。

**事務局**：一期一会荘が、前からあるものに加え新しい特別養護老人ホームのふたつになったので、その分の高齢者数が増えている。

**委員**：それも入ってきて40%になってしまうのは複雑な思いである。施設も入れるということは、施設のあるところは高齢化率が高くなるということか。

**事務局**：高齢者保健福祉計画の中で議論するときは、その数字と外した数字とを確認しながらどうやっていくかということになっている。

**委員**：パブリックコメントで意見の提出は今回なかったと報告があった。第2期計画の時に結構詳しいパブリックコメントを出した人がいて、意見がきちんと取り上げられるのでパブリックコメントは大切なのだと認識している。今回なかったの

が残念である。

第3期計画のキャッチフレーズ、基本理念を表紙に飾られると良いと思う。例えば34ページ「安心できる 心がつながる 支え合う みんなが主役の地域づくり」とあるが、これを表紙に書いてはどうか。

実施期間についてであるが、第2期計画では5年間の計画がなされている。今回、第3期計画は令和5年からスタートして令和11年までと書かれている。期間を明確にするという意味でも、これも表に記載があるといい。

73ページからの資料編の中身について。第2期計画の時には、第1期計画の実施報告書がまとめられていた。今回は、第3期計画の策定経緯が1ページ使われており、あとは推進委員会の条例文である。第3期目なので、第1期の実施計画と第2期の実施報告をかいつまんで数ページ追加するのが必要かと思う。第3期計画を見た時に、第1期や第2期の成果をまとめて掲載されたほうが良いと思う。

推進委員会の条例の最後に気になる文章がある。76ページ「附則」の部分、施行期日が平成26年4月1日から施行となっており、経過措置で委員の任期について「第5条の規定にかかわらず、平成30年3月31日までとする。」とある。これに該当するかはわからないが期限が過ぎており意味がないように思う。注釈があるなら良いが、経過措置は現実に該当しないのであれば抹消してもいいのではないかな。

**事務局：**表紙について説明不足であったが、このままではなく表表紙、裏表紙にはデザインを入れる予定である。その過程で、ご指摘のあった基本理念や計画期間については盛り込む予定である。

過去にやってきた経緯を資料編に掲載することについては、まず目次を見ていただきたい。第2章4に「第2期計画の評価」がある。ここで第2期の振り返りとその評価をしている。第1期計画の振り返りは、今まで検討したことがなかった。そういった事例をあまり見たことがないが、先生からご助言いただけたらと思う。

**委員長：**こういった1期、2期、3期という計画は積み重ねていくものであり、第1期の振り返りのもとで策定された第2期から、この第3期がどう繋がるのかということである。事務局から説明があったように、第2章4で第1期を踏まえて策定し、実行してきた第2期を振り返っているのだから、これを踏まえての第3期、ということではよろしいのではと思う。

**事務局：**条例の附則、経過措置について、法律や条例等のルールとして制定附則というものがある。最初の附則は、この推進委員会条例を設置したときにいつから使っ

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

ていくのか等、制定した時の委員の任期についての特別な取り扱いとして載っているものである。法律や条例のルールとして条文があつて制定附則、最後の附則は改正した時の附則がある。それが平成 27 年 4 月 1 日からで、制定した時から改正までの流れを見せるのが一定ルールになっているので、ご理解いただきたい。

**委員長**：ルールとして、条例を改正して削除しない限り、この原文を載せざるを得ないのでご理解いただきたい。

**委員**：いろいろな計画があるが、果たしてどれだけの市民に受け入れられて、これが理解されていくか。会議も、時折欠席するとさっぱりわからない状況に陥ってしまっている。間違えて前回の資料を持ってきてしまっていたが、劇的に内容が変わっていて、良くなっていると思う。最近では Youtube 等でこういった計画の解説をする人がいるが、見ているとわかったような気がしてくる。担当者が Youtube 等に出演し、皆が気軽に見てわかるようなものもあると良いのではないか。

**事務局**：計画書というものは、なかなか皆さんにご覧いただく機会がない。概要版も作る予定で進めている。なるべく視覚的にわかりやすくということを念頭に置き、つくって終わりではなく、どう伝えていくかも大事だと思っている。

**委員**：自分は子ども会をやっているので、若いお父さん、お母さん方にもわかりやすく、漫画チックなものも入れたような概要版にしてはどうか。

**委員長**：市民の皆さまに計画全体を良く理解していただくことが大事である。特に基本目標 1、市民の参画による支え合いの地域づくりにおける各施策の部分で、いろいろな機会に市民に協力・参加してもらうような働きかけや、この計画で示した事業等をより理解いただけるような取り組みを、この計画策定後、具体的に実施していければ良いと思っている。委員の方々にも、様々な機会を通じてご協力をいただければありがたい。本日提出された計画案について、修正等の必要はないかと思うが、委員会として第 3 期岩倉市地域福祉計画として承認することとしてよいか。

**委員**：異議なし

**委員長**：昨年度から、この第 3 期計画の策定作業では委員の皆さまから様々な意見を出していただき、こうやって最終的な計画を取りまとめることができた。皆さまにこの場を借りて感謝申し上げる。計画についてご承認いただいたので、後ほど市長に事務局から計画を報告していただくようお願いしたい。それでは（3）に入る。

### （3）第3期岩倉市地域福祉計画進捗確認シート（案）について

資料3を用いて事務局から説明。

**委員**：進捗評価シート1枚で、各実施項目、基本計画の該当事項ごとにまとめられるのだと思う。取組が展開される間、実施状況を把握する機会があるが、このシートはいつ使っていくのか。評価時期は具体的にどうなるのか。令和11年度まで成果指標の目標値が書いてあるが、各年度でどのようにこれが展開されるのかが正直わかりにくい。令和11年度になって結果が出た時、最終的に地域福祉計画の第3期をどう評価するのか。順序立てて、これがどの段階で出てくるのかというのが明示されるといい。

**事務局**：計画書69ページ「2 計画の進捗管理の手法」で、“事業の進捗状況について、各年度検討するとともに翌年度第1回の推進委員会で評価等を行い、事業をより良いものにしていきます”と書いてある。例えば令和5年度の計画のスタートであれば、令和5年度分は年度末に担当課にシートを書いてもらい、令和6年度第1回の推進委員会で委員に報告し、委員からも評価をしていただく。それを繰り返すことで全てのシート、計画書の全てについて毎年度評価を行っていくという内容である。

**委員**：実施項目が多いので大変だと思う。

**委員長**：このような地域福祉推進計画では、計画を立てることが目標ではなく、立てた計画を基に着実に市民と一緒にまちづくりを進めていく、支え合いを進めていくことが一番大事である。毎年度の進捗管理をして、どれだけ取り組んだことが市民に実際に参加してもらえて、また様々な人に効果を発揮しているかを毎年確認しながら、ひとつのツールとして管理シートを用いていくと思う。大事なのは、具体的にどのようなことが行われ、それがどのくらい浸透しているかという実質のところであって、それを計るのが市民アンケートではあるが、過去データとの比較でしか客観的に計れない。データがいちばん大事なのではなく、市民アンケートは毎年答える方も違うし回収率も違うし、逆に言うとせっかくいろいろな取組みに参加してくださった市民がアンケートに答えていない可能性もある。ひとつの目安として、どれだけ浸透したのか数値でも確認するが、実績の内容で具体的な各事業の取組内容・成果や今後の方向性などを委員と一緒に確認しながら、この計画を進めていければと思っている。その点をご理解いただき、よろしくお願ひしたい。進捗評価シートについて、この形で進めていくということを確認した。

以上で本日の議題は終了である。原田先生より、今後この計画を推進していく上でアドバイスをお話いただく。

**アドバイザー：**アドバイザーを務めさせていただいた原田である。去年の3月、第2回目の委員会に出席し、それ以来で今回が最後の出席となるが、この間、私と事務局とで毎月会議をしていた。この委員会でいろいろなご意見が出たものをどのような形で修正しようか、事務局の皆さんもすごく悩まれ、検討され、そこにに関わりながら今日の計画にまとめるプロセスを踏んできた。ご議論いただいた通り、これから皆さまが進行管理をしていただく時にご留意いただきたいところはいくつかあるのでお話させていただく。

4ページ「計画の期間」について、先ほど議論もあり確認されていることだが、それまでの5年計画を第3期で7年にした意図は、一覧表にある通り、障がいや高齢、他の分野別計画としっかり整合性を持たせ、一体的にやっつけようということであった。児童・障がい・高齢がバラバラにあるのではなく、地域福祉計画も含めて一体的に進めていく、その時に今までは計画期間バラバラであったが、そこを揃えながら今後は障がいや児童や高齢・介護保険なども一体的に進められるようにしようということで、地域福祉計画を延ばして7年にしてある。地域福祉計画のいろいろな進行管理をしていく上で、他の分野にも少し目配りをしながら進めていただくと全体像が見えてくるだろうと思っている。

次に、委員長からもあったが、15ページに「市民アンケート調査結果」が載っている。アンケート調査はひとつの数字でしかないのがこれ全てではないというのは大前提である。自分は岩倉市に関わるまで、岩倉市は行政も社協も市民も、非常に熱心なので何も困っていることがないのではと思っていた。岩倉市はすごく落ち着いているまちであるし、いろいろな事が丁寧に行われている。ところが改めて調査をしてみると課題が浮かび上がってきた。これは岩倉市だけのことではないが、いろいろな課題がある。特に地域活動に参加されていない方が8割近くいる。この調査時点という限定的なものではあるにせよ、市民の中で8割の方があまり参加できていない現状がある。これから先、10年、20年先を考えていくと、今しっかり地域福祉をしておかないと、ますますこの部分が増えていってしまうかもしれない。そういう意味ではこの数字だけではないが、様々な現状や課題をしっかり踏まえて第3期の計画が議論されてきたというのはとても大事なことだと思った。

その上で34ページ「計画の基本理念」では、この委員会で素敵な基本理念がまとめられたと拝見していた。ただ、ひとつひとつはすごく難しいことを言っていると思う。市民が安心できる、つながるだけではなくて心がつながるといのはすごいことである。その上で支え合うということ、そうすると市民4万8千人、

一人ひとりが主役の地域、まちづくりをこれからどう岩倉市で展開していくのか。この基本理念はすごく大事で、これが単なるキャッチコピーではなく、安心や心のつながりや支え合い、あるいは市民一人ひとりが主役になれるまちとは具体的にどうしていけばいいんだろう、ここにこれからもこだわりを持っていただき、この第3期計画が進められるととてもいいまちに近づいていくと思う。

43 ページからの成果指標の捉え方について議論もあったが、今回事務局が非常に悩んだのが成果指標であった。数字をどう出すか、数字だけを出してしまうと独り歩きするし、かといって具体的でないといけないということで、この委員会の中でいただいた、特に前回のご意見は、事務局としては悩みながらどう数字を設定したらいいかを検討した。今日まさに話に出たように、数値だけにとらわれ、「できた・できない」だけではないというのは地域福祉の大事なところだと思う。プロセスを大事にするから、令和 11 年になって「できた・できない」ではなく、毎年のプロセスをどうみていくか。そうすると先ほどの進捗管理シートにあるような、毎年きちんとチェックをしていくということが大事になる。もしかしたら来年頑張れば達成できるかもしれない。そうしたらこの数値目標、目標値は途中で変えていっても良いと思う。実際にやってみたら、達成が難しい数値であったかもしれない。中には 100% という数字を出しているところもあって大丈夫かなと思うところもあるが、1 年 1 年積み上げながら、先ほど委員長からもあった、プロセスややってみてどうだったかということを検証しながらこれを進めていくということが改めてとても大事である。今までの地域福祉はあまり計画の進行管理ができてこなかったという反省点がある。そのため、指標や目標を定めながら 1 年 1 年積み上げていくということが本当に大事になってくるなど、改めて岩倉市の関わりの中で思った。

最後に 69 ページ「計画の進捗管理の手法」について。進捗管理の図がある。図の上部にあるこの推進委員会が非常に重要な役割を担っていくのはもちろんだが、それを支えていく下の部分に共同事務局がある。この共同事務局は行政と社協が一体的になってやっていくということである。もうひとつ、市の中に庁内会議があるのも大事なことだと思う。福祉系の計画なので健康福祉部が頑張るのは当然だが、この計画の中で出てきているように、これからの地域福祉というのは健康福祉部だけではなく、岩倉市全体で関わっていかなければいけないということで、それも含めて市に庁内会議がしっかりと位置づけられている。市役所が連帯で頑張ると同時に、社会福祉協議会と共同しながら、共同事務局をつくって、この地域福祉計画の推進委員会としっかり一体となって PDCA を回していくという、このところも岩倉市らしい進捗管理の手法としてまとめられたなと思っている。やればやるほど、課題はたくさん出てくるだろうと思うが、まずは第3期の見取り図

が出来たということは、岩倉市らしい地域福祉計画として大変素晴らしいものがつくられていると思っている。

**委員長**：第3期計画を、来年度から進めていく上で大切にしないといけないポイントを非常にわかりやすくご指摘いただいた。是非それを踏まえて更に進めていきたいと思う。それでは次、その他に入る。

### 3 その他

#### ・地域福祉推進フォーラムについて

**事務局**：お手元にある、地域福祉推進フォーラムのご案内をする。令和5年3月19日曜日、岩倉市生涯学習センターで、本委員会の委員長でもある児玉善郎先生にご講演いただく。是非、委員の皆さまについてはお知り合いの方もお誘い合わせの上、是非ご参加をお願いしたい。

**委員長**：以上で次第は全て終了した。進行を事務局にお返しする。

**事務局**：地域福祉計画推進委員会の委員任期は5年間で、これも3月31日で任期が満了となる。令和5年度からの委員については、今回第3期の計画そのものがこれまでの計画と大きく変わっているため、委員の構成について変更も含め検討しているのでご了承いただきたい。

最後に、第3期の計画に関わっていただいた皆さまにお言葉をいただきたい。

**委員**：この素案が案として、いよいよ市長に出されるということだが、立派なものできたからと絵に描いた餅ではなく、魂を入れてこれに取り組みなければいけないと改めて感じている。

**委員**：難しく大変な仕事だったが、素晴らしいものできた嬉しく思っている。ただできるのが目的ではなく、私たちがどのようにしていくかということのほうがもっと大事だと思うので、計画の通りにいくことを願いつつ、ここに座らせていただいてお世話になった感謝の気持ちを述べたい。

**委員**：今年、区長会長を務め、その関連でこの委員会に出席することになった。日頃から思っているが福祉というのは難しい。私もボーイスカウトをやっているがボランティア活動に参加をしているが、高齢者、シングルマザー、いろいろな問題があって、社会でも年収200万円ない家庭が非常に多い。それに対してどのようにしてその人たちを自分で生きていけるようにするかはとても大変なことだと思う。



審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

お金を支援するから頑張りなさいではなく、支援金を貰わなくてもその人たちが自立できる社会をつくっていかないと駄目だと思う。そういう意味で福祉の重要性というのはすごく大きいと思うので、岩倉市ではこのように計画され、これを実行されていく、それに少なからず関わることができたことはとても良かったと思う。あとは岩倉市がどのように良いまちになっていくか、暮らしやすいまちになっていくか、見ていきたいと思う。

**委員** : いよいよ第3期がこれから始まるが、それを支えていくのはやっぱり私たち推進委員会のメンバーである。大切な役目であるというのは十分認識しながら、大変なことだとも思う。第3期計画の中で、国全体が地域福祉の中で取り上げている包括的支援体制、それから重層的支援体制が課題だと言われてから月日が経っている。これを岩倉市で具体的に仕組みとして作っていく必要があるので、それを岩倉市民のお尻を叩いて、皆その気になっていただかないといけない。それをどうやってやるか、大変だと思うが、事あるごとに機会を設けてその度に訴えていく。皆さんに協力してもらえるような努力をしていくべきで、頑張っていきたい。

**委員** : 第2期計画の時に小学校区ごとでそれぞれ課題解決を進めてきたが、第3期ではより細かいところの活動になってくる。ますます私たちも高齢化し、自分事に近づいていると思っている。

**委員** : 日頃やっているボランティア活動が福祉の中の位置付けに繋がっているなど改めて感じた。これからも続けていきたいと思っている。

**委員** : 100%出席できず申し訳ない。いろいろな会議に参加しているが、なかなか受け入れられないというところがある。学校教育だけでなくいろいろな所でやらないといけない。大事なことであるので、福祉は推進計画しなくても身について当たり前になるような社会になるといいなと思っている。

**委員** : 婦人会から出席させていただいているが、だんだん難しくなってくるような気がする。アンケートを見ても疑問に思うことがたくさんある。果たしてその疑問が何かと言われると、どうやって解決していくかということもある。岩倉市はすごく地域性があると思う。私が住んでいるところは田舎なので割とコミュニケーションがはかれていると思っている。また高層マンション等は地域性がないので、その辺りのことをどうしていくのかということもある。

アンケートも、同じ人に届くわけではない。もしまたアンケート出すのであれば

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

ば、例えば区長さんにまとめてもらえば回収率も上がるのではないかと。またそれで区のことかわかると思う。区長も忙しいからそこまでできないかもしれないが。

今、地域でサロンをやっている。そこでも区長や役員も来るが、そうすると今度は高齢者ばかりになってしまうので、若い方と一緒に取り組めばまた変わってくるのではないかと思う。

**事務局：**皆さまからのご意見を踏まえて、計画を大切に推進していきたいと思う。